



歴史街道
EKIKISHI KAYDO

重要伝統的建造物群保存地区

ならかしはら

今井町

かつて「大和の金は今井に七分」といわれるほど繁栄した町

現在も、五〇〇軒もの町家が連なり、

町全体が江戸時代の姿を残しています。

伝統的建造物群保存地区とは

昭和50年の文化財保護法の改正によって、伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存しようとする制度です。
今井町は、寺内町として、平成5年12月8日に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

今井町の歴史

今井の地名は至徳三年(1386)の興福寺一乗院の文書にみえますが、今井町の成立は戦国の世、天文年間(1532~1555)この地に向宗本願寺坊主の今井兵部卿豊寿によって寺内町が建設されたことに発します。一向宗の門徒が、都市計画に基づき今井に御坊(称念寺)を開き、自衛上武力を養い、濠をめぐらしました。永禄十一年(1568)織田信長が、足利義昭を擁して上洛以来、本願寺は反信長の旗を立て、今井もそれに呼応し、寺を中心とした城塞都市の形態を整え、抵抗しましたが、天正三年(1575)明智光秀を通じて信長に降服し、事なきを得ました。かくして、大坂や堺などとも交流がさかになり、商業都市としての変貌をとげ、江戸時代には南大和最大の在郷町となって、大いに栄えました。また、堺と並び自治的特権が認められ、惣年寄、町年寄がおかれて町政を担いました。

今井町の町並み

称念寺を中心とした寺内町今井は、江戸時代初期の概略では、東西600m、南北310m、周囲には環濠土居を築いた戸数1100軒、人口約4,000数百人を擁する財力豊かな町でした。町割は西、南、東、北、新、今の六町に分かれ、9つの門からは木橋を渡って濠を渡り、外部の道路と連絡しています。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させてあります。これは、敵の侵入に備えて、その遠見、見通し、弓矢・鉄砲の射通しを不可能にするためでした。これらは当初、軍事目的のためにつくられたものですが、江戸時代中頃は富裕な商人の生命、財産等を外部から守るというものに変貌しました。

現在も、今井町の大半の民家が江戸時代以来の伝統様式を保っており、慶安3年(1650)の今西家をはじめとして、美しい民家が数多く建ち並び、今なお、町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせています。

今井町

重要伝統的建造物群
保存地区

飛鳥川の流りに架かった蘇武橋を渡る そこは江戸時代だった…

凡例

- 環濠復元
- 環濠跡
- 伝統的建造物
- A~I 重要文化財
- J~L 県指定文化財
- M~Q 市指定文化財
- 重要伝統的建造物群保存地区
- ♻ トイレ
- BK 銀行
- ☒ 旧町名の案内標示板



A 今西家住宅

☎0744-25-3388

重要文化財 事前連絡要 見学有料

今井町の西端にあり、惣年寄の筆頭をつとめていた家です。慶安3年(1650)に建てられた民家ですが、城郭のような構造で別名「八つ棟造り」とよばれている豪壮な建物です。
[昭和32年6月18日指定]

B 豊田家住宅

☎0744-25-0418

重要文化財 事前連絡要 見学有料

旧は材木商「西の木屋」牧村家の所有で、幕末には大名貸しを行い藩の蔵元等をつとめていた豪商です。建物は寛文2年(1662)に建設されたもので、今西家住宅と並び今井町における上層町家の好例です。
[昭和47年5月15日指定]

C 中橋家住宅

非公開

重要文化財

称念寺の筋向かいにあり、屋号を「米彦」といい江戸時代は米屋を営んでいました。主屋は、18世紀後半頃に建てられた平屋建の町家でしたが、19世紀初頭頃、正面通りに「つし二階」が増築されました。
[昭和47年5月15日指定]

D 上田家住宅

☎0744-23-5457

重要文化財 事前連絡要 見学有料

今西家・尾崎家と並び惣年寄をつとめていました。主屋は祈禱札から延享元年(1744)頃の建築とみられます。入口を西側に設け屋根も他家と異なります。内部は惣年寄の特権からか装飾的な要素が多いです。
[昭和47年5月15日指定]



歴代の豊田家当主が収集した江戸時代中期から明治時代初期の書画、骨董、陶器、古美術品と商家当時の生活を偲ぶ生活用品を展示しています。毎年春・秋期前に展示品を入れ替えており、今井町の歴史を細やかに知ることができます。

紙半 豊田記念館 見学有料
TEL.0744-24-0348 ⑧年末年始

施設関係一覧表

(市外局番 0744)

- 今井まちなみ交流センター「華薺」(旧高市郡教育博物館) 月曜休館
☎24-8719・☎24-8719
- 今井まちづくりセンター 月曜休館
☎22-1128
- 今井まちや館 月曜休館
☎22-1287
- 今井景観支援センター 土・日・祝休
☎29-7815
- 今井町並保存整備事務所 土・日・祝休
☎29-7815・☎24-9712
- 中町筋生活広場(防災小屋・防火水槽)
- 南町生活広場(南口門・防火水槽)
- 旧西町生活広場(防火水槽)
- 旧北町生活広場(防災小屋・防火水槽)
- 今井都市緑地
- 今井第二都市緑地
- 今井児童公園(防火水槽)
- 北環濠小公園(防火水槽)
- 今井蘇武橋公園

市指定文化財

- M 旧常福寺観音堂 (昭和51年12月1日指定)
- N 称念寺太鼓楼 (平成6年11月7日指定)
- O 称念寺庫裡・客殿・対面所 (平成10年3月20日指定)
- P 順明寺表門 (平成6年11月7日指定)
- Q 旧常福寺表門 (平成6年11月7日指定)

L 旧高市郡教育博物館

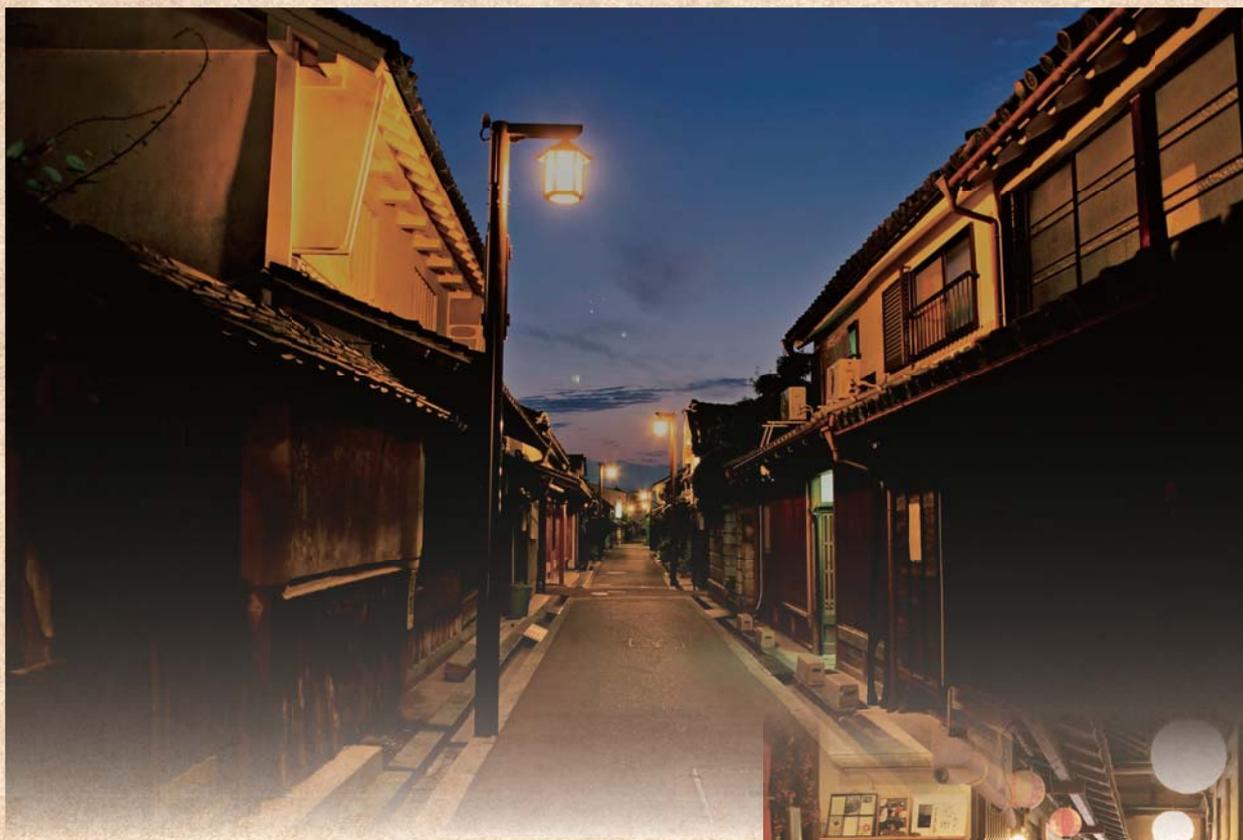
＝今井まちなみ交流センター「華薺」

重要文化財

明治36年(1903)に建てられた社会教育施設です。昭和4年より今井町役場として長く使用されていました。修理にあたり旧状に復元し、今井まちなみ交流センター華薺として再生しました。

※月曜休館①、②、③、(祝日の場合は翌日)

江戸時代の風情を今に伝える一



もっと今井



旧米谷家住宅

【内部見学無料】

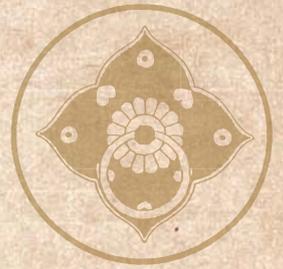
TEL0744-23-8297

※月曜休館

中町筋北側に面し、切妻造、本瓦葺き、平入りで立ちの低い町家です。内部は東側に通り土間、土間の隅はシモミセを取り、居室は珍しく五間取りです。裏庭に建つ土蔵は、数奇屋風の蔵前座敷を付属しています。旧米谷家は、今井町には珍しい広い土間、煙返しなど、農家風民家のイメージが強い建物です。



奇跡の町 今井町



全国最大規模の重要伝統的建造物群保存地区「今井町」は、その町並みを構成するすべてが見どころです。「日本に今井町が残っていて良かった。」今井町を訪れたあなたはきっとそう思うことでしょう。今井町の魅力を心ゆくまで感じてください。



町を知ろう

今井まちや館

【内部見学無料】

TEL0744-22-1287

※月曜休館

本町筋の中央部にあり、18世紀初期頃の町家ですが、明治以降は、空家の期間も長く破損も甚だしい状況になっていました。調査の結果、今井町の大型町家の基本平面を持っている貴重な建物であることが判明し、痕跡資料にもとづき古材再利用、耐震、防火施設の充実をはかり当初の姿に復元しました。文化財指定民家にもおとらない建物で江戸時代中頃の雰囲気を味わっていただくことができます。



今井まちなみ

交流センター(華豊)

【内部見学無料】

TEL0744-24-8719

※月曜休館

明治36年(1903)高市郡教育博物館として建設され、昭和4年より今井町役場として使用されてきました。当時、奈良県の社会教育施設としては、奈良公園に造られた「帝国博物館(現 奈良国立博物館)」に次ぐものでした。現在は、今井町の歴史を詳しく解説する資料館として、展示コーナー、映像シアター、図書閲覧室などがあり、今井町の歴史をさまざまな角度から知ることができます。

八木町

長い時を越えて
今も残るかつての風情

小さなエリアの中に風情あふれる光景 ぎっしり詰まった町並みを楽しむ。

A 奈良県立畝傍 高等学校

登録有形文化財 非公開
昭和8年(1933)奈良県立畝傍中学校舎として竣工。中央に塔を配した寺院を模した意匠が特徴。戦時下、海軍経理学校に接収され米軍機の機銃掃射を受けました。設計者は岩崎平太郎。



B JR畝傍駅

明治26年(1893)に神武天皇陵参拝のため誕生しました。現在の駅舎は昭和15年の紀元2600年祭式典に合わせて造られ、橿原神宮と同じ総白木造が特徴です。皇室の休憩用として重厚な雰囲気か漂う貴賓室(非公開)も設けられています。



C ジュールフェリエ (旧六十八銀行八木支店)

登録有形文化財 現在はレストランとして営業中
昭和3年(1928)に旧六十八銀行八木支店として竣工。元奈良県技師・舟橋俊一的设计で、イオニア式の円柱を配するルネサンス風の造りが特徴です。奈良県南部に現存する最古の鉄筋コンクリート造りの一つです。



D 八木基督教会

要問合せ ☎0744-22-3584

昭和11年(1936)に竣工された教会建築で、東側の妻壁にはロマネスク風の半円アーチ三連を持つ出窓があります。また、内部は和洋の混在を機能的にうまく処理したダイナミックで厳かな空間が広がっています。



凡例

- 伝統的な町家
- 近代建築
- 案内板・説明板
- 碑
- - 古代の幹線道路
- 環濠跡

9 おふさ観音 (高野山真言宗別格本山観音寺)

☎0744-22-2212

土地の娘「おふさ」さんがこの地で観音様を祀ったのが起源だともいわれています。毎年、春と秋には約3,200種類のバラが優雅に咲き誇ります。



8 延命院八木寺

☎0744-23-2261

桜井市の長谷寺を開山した徳道上人によって天平時代に建てられた八木寺の後身寺院。本尊の十一面観世音菩薩は、長谷寺の本尊と同じ霊木から彫り出されたと伝わり、「福寿観音」と呼ばれています。





散策コース

近鉄大和八木駅 ▶ 恵比須神社 ▶ 河合家住宅・河合源七郎家住宅 ▶ 芭蕉句碑 ▶ 八木札の辻交流館 ▶ 谷三山家住宅 ▶ 福島家住宅 ▶ 畝傍高校 ▶ 春日神社 ▶ おふさ観音 ▶ 飛鳥川沿い ▶ 今井町へ



1 八木札の辻交流館

登録有形文化財 ☎0744-26-2684
18世紀後半～19世紀前半頃に建てられたと考えられているかつての旅籠です。1階は接客と主人の居室、2階が宿泊施設として利用されていました。改修を行い、平成24年7月から現施設として一般公開しています。



2 西の平田家住宅

非公開
近世には「きわらや」という屋号で、旅籠としてにぎわっていました。二階への大階段もそのまま残っています。



3 河合源七郎家住宅

登録有形文化財 非公開
初代河合源七郎によって、明治20年代後半に町屋として主屋を建築、さらに大正時代に、離れ座敷や茶室が増築されました。平成21年に登録有形文化財に登録されています。



4 河合家住宅

登録有形文化財 非公開
天保13年(1842年)、八代目の河合庄九郎の頃に「絞り油屋」を営んでおり、建物自体があったと推測されています。平成21年に登録有形文化財に登録されています。



7 恵比須神社

創立年代は明らかではないが、江戸時代初期頃には既に祀られていたといわれています。河瀬直美監督の第64回カンヌ国際映画祭正式招待作品『朱花の月』撮影のロケ地でもあります。



6 福島家住宅

非公開
高取藩の下屋敷として、参勤交代の起点となった家で御殿部屋が残っています。享保10年(1725)の棟札があります。



5 谷三山家住宅

非公開
幼い頃に聴力を失いながらも、私塾「興讓館」を開き多くの門下生を排出した幕末の儒学者・谷三山の生家で、吉田松陰等、諸国の名士が来訪しました。



重要伝統的建造物群保存地区
今井町



歴史街道
REKISHI KADDO

ならかしはら

八木町

かつての賑わいの象徴「八木町」

郷愁にも似た、

安らぎに包まれる街を歩く

八木町の歴史

古代、政治の中心地であった奈良盆地には、早くから多くの幹線道路が整備されていました。都から大陸への玄関港である難波の津を結んでいた横大路、大和から今の和歌山市に至る紀路などです。藤原京から北に向かつては、中ツ道、下ツ道と呼ばれる道路が存在しており、八木の町はその横大路と下ツ道の交差点を中心に生まれ、中世には既に町を形成していたといわれています。江戸時代になると、横大路を含む河内から伊勢に通じる道は「伊

勢街道」や「初瀬街道」と呼ばれ、また、下ツ道は「中街道」と称されるようになり、北は奈良を越えて山城に達し、南は吉野・紀伊方面に通じており、この2つの街道交差点である「八木札の辻」は、お伊勢参りや大峯山への参詣巡礼などで大いに賑わいました。当時の姿は江戸時代に出版された「西国名所図会」にもいきいきと写し出されています。また、松尾芭蕉や本居宣長、吉田松陰といった歴史上の著名な人物もこの地に足跡を残しています。

八木町の町並み

八木町には、文化的に貴重な建物をはじめ伝統的な町家が約300軒も残っています。その一方で近代的な歴史的建造物も数多く存在し、中でも畝傍高校校舎や旧六十八銀行は登録有形文化財に登録されています。町を巡れば、通りの表・路地裏のいたるところで、古びた商家の看板、人々が集った

井戸、昔ながらの銭湯、懐かしい小鳥屋・茶葉屋といったノスタルジックなシーンに出会うことができます。有名な施設や名所があるわけではありませんが、タイムスリップしたかのような不思議な既視感、郷愁にも似たある種の落ち着いた気分に包まれる、そんなひとときを過ごせる空間が広がっています。

お問合せ

橿原市観光課 〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号 TEL0744-22-4001
(一社)橿原市観光協会 〒634-0804 奈良県橿原市内膳町1丁目6番8号 TEL0744-20-1123

2014年1月発行